

やめてもいいと思えるから、挑戦できる！

「あなたがやりたいって言ったんでしょう」子供が何かをやめたいと言い出したときに、このように言ったことはありませんか？どんな選択をしてもそこに必ずメリットとデメリットがあります。

本当に、始めたことは途中でやめてはいけないのでしょうか？岡崎大輔さんが著書「親も子もラクになる ゆるめる子育て」（明日香出版社）で次のように言っています。

「やってみて、やめる」ことも大切

ひとつことをやり通すこと、自分が決めたことをやり抜くことも大切です。途中でやめてしまうことへの抵抗もあるでしょう。しかし、様々なことを体験する中で自分が本当にやりたいことを見つかり、いろいろな能力を幅広く身につけたりすることも大事ではないでしょうか。



一つ、本当に好きなものに出会えるかは、だれにもわかりません。途中で「やりたいことではなかった」と気付いたのであれば、早い

段階で見切りをつけて違うことをやってみるという判断力も重要です。変化の激しいこの時代で生き抜くには、とにかく動いてみて周りの状況を観察し、環境に合わせて変化していくことが求められます。「やり始めたことは途中でやめてはいけない」

と子供を縛ってしまふと、「やりたい」という気持ちが湧いてきても、重いブレーキがかかり、気軽に前に踏み出せなくなります。



やめるときのルールを決める

もちろん、お金がかかる習いごとや、送り迎えなど親の都合もあるので、子供がやりたいことをすべて叶えることはできません。そこで、やり始めるときに子供と「〇〇まではやってみよう」と約束をしておくのはどうでしょう。また、「どうしてやめたいのか」を聞き、何につまずいているのかや、やめる時期を一緒に考えたりするのがオススメです。

やめてもいいと思えるから、新しいことに挑戦できるので大丈夫です。子供が自分で選んで決めたことは、たとえどんな結果が出ても、子供の「生きる糧」になるにちがいありません。

「やめてはいけない！」と縛るのではなく、失敗してもうまいかなくとも、「あなたの味方だよ」と伝えて、安心して挑戦できる環境を整えることが、親のできることではないでしょうか。

